



TITLE:

【学会記事】テオドール・ダムス 特別教授講演会

AUTHOR(S):

江頭, 進; 八木, 紀一郎

CITATION:

江頭, 進 ...[et al]. 【学会記事】テオドール・ダムス特別教授講演会. 経済論叢 1991, 147(4-5-6): 180-180

ISSUE DATE:

1991-04

URL:

<https://doi.org/10.14989/44774>

RIGHT:

經濟論叢

第147巻 第4・5・6号

社会統計学の「外敵」と「内敵」(1).....	長 屋 政 勝	1
外国人労働者の労働条件.....	久 本 憲 夫	31
マレーシアの石油権益における連邦と州の対立 (1) ...	中 島 健 二	56
地方財政統制手段としての地方交付税 (2)	李 昌 均	66
1930年代の朝鮮における都市の構築と生成.....	松 永 達	83
カルドアの市場理論と価格論.....	服 部 茂 幸	104
自由貿易体制下の英国糖業 (1)	大 沼 穰	119
世紀転換期英国における地価課税運動 (1)	藤 原 一 哉	134
組織における人格の分裂と統合のメカニズム.....	磯 村 和 人	148
生活保護人員経費低下の促進要因としての 行政メカニズム.....	田 中 き よ む	165

学 会 記 事

平成 3 年 4・5・6 月

京都大學經濟學會

【学会記事】

テオドール・ダムス特別教授講演会

さる3月26日に、テオドール・ダムス教授を向かえて、「統一ドイツの課題と欧州統合」と題して講演会が開催された。ダムス教授は、1952年、ボン大学にて博士号を取得され、その後EC委員会農業構造改善政策局長、フライブルク大学教授、同大学発展政策研究所所長を経て、90年に退官された。

ダムス教授は1990年10月のドイツ統一によって大きく変化したヨーロッパ情勢の中で、ドイツ国内の二重性、EC域内での経済的発展地域と遅滞地域のギャップなどの問題を解消するために、社会的、経済的秩序へ、国家レベルもしくはECレベルでの適切で積極的な政策介入が必要であると主張されている。今回の講演では、EC統合および東欧革命の文脈での、統一ドイツの抱える国内的、国際的諸問題について取り上げられた。講演の主な内容は次の通りである。

- (1) 統一ドイツの今後の国内的調整には、旧西ドイツの通貨制度への旧東ドイツの組み込みが必要であり、そのためにはドイツ連邦銀行が重要な役割を担っている。
- (2) 東ドイツ農業を再建するためには、要因配分の最適化、生産物の供給システムの効率化が最も重要である。
- (3) 旧東西ドイツの持つ経済的、社会的二重性が、統一ドイツの大きなマイナス要因となっている。故に、旧東ドイツを市場経済に適合させることによって、この二重性を取り除くことが急務である。
- (4) EC統合にとって、統一ドイツはその政治的、経済的原動力となる反面、EC域内の経済的遅滞地域との摩擦を引き起こす可能性がある。

講演は、EC委員会やドイツの経済政策形成に長年たずさわった教授の経験から、状況の分析が非常に具体的であり、説得力を持ったものであった。

約2時間に渡る講演は非常に内容の濃いものであり、約30人の出席者も熱心に教授の話に聞き入っていた。講演の後の出席者による質問は具体的な問題に関連したものが中心であり、その一つ一つに対し、教授は誠意ある返答をされた。

(江頭進・八木紀一郎)